

教育目標		自主・自立の精神や豊かな表現力を持つ思いやりのある生徒の育成						
重点目標		東中しぐさ(心)の確立 → 和文化と心の融合						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校運営協議会	
基礎・基本の徹底 確かな学力の向上	①基礎的、基本的な知識・技能を習得する ②定期テストの結果を分析し、効果的な学力向上策の実施する	①各教科で小テストを行い、適切に評価することで学習意欲を高める。 ②弱点項目(30%以下)について、質問しやすい声掛けや環境づくりをする。	①小テストなどの評価で適切に評価されているという回答が80%以上になる。 ②弱点項目に対する質問がしやすいという回答が80%以上になる。	B	関連するアンケート項目については、生徒は去年に比べて微増して87.5%となり、保護者は減少して86.5%となった。「先生に質問しやすい」という項目については、60%をきり、目標を達成できていない。授業中に質問の時間を作っても、質問にくい生徒は変わらない模様。どのように対策をすれば質問がしやすいかを考えていく必要がある。また、現状に即した目標設定を行うべきである。	「学習の成果を適切に評価してくれる」については、基礎・基本の徹底を行うために、小テストや課題、実技を行わせ、引き続き書けなどを、できていない箇所を丁寧に説明することを継続していきたい。また、問題等でできていない箇所を授業やテスト返却の際に、より意識して明確にしてい、さらに、シラバスを活用し、生徒・保護者に対し、各教科の評価の仕方について周知徹底を行っていく。「先生に質問しにくい」については、業間では、授業内容について先生に質問する時間の確保が難しいため、別の枠で生徒が先生に分からない事を質問する時間をつくる(テスト1週間前の放課後学習)ことに加え、質問しにくい生徒が質問できる環境(例えば質問カードをつくるなど)を設ける工夫が必要である。また、「先生に質問しやすい」については、現状をふまえて、来年度は「65%以上の好評価の獲得」を目標としたい。	基礎基本の定着と課題学習への対応のための授業改善が課題と考えられる。生徒のできていない箇所を確認・点検し「学びに向かう力」を育成していく必要がある。「考える」「発表」の技法を工夫しアクティブラーニングの活用がより望まれる。授業における質問しやすい雰囲気や環境作りが大切である。	
	①家庭学習を充実させる ②朝読書を通して読書活動を充実させる	①1日2時間の家庭学習を達成させる ②全員が集中して10分間の朝読書を行うよう指導する。	①「家庭学習のための宿題が適切に出されている」という回答が、保護者、生徒ともに80%以上になる。 ②朝読書の充実のため、ライブラリーサポートによる移動図書だけでなく、学級貸出を充実させ図書館利用増加へつなげる。	①「家庭学習のための宿題が適切に出されている」という回答について肯定的な意見を持つ生徒は80%以上いることに対し、保護者は70%を切る。保護者から見て、家庭学習が適切に行われているか見えないという実情がある。 ②朝読書の充実のため、ライブラリーサポートとの連携から、学校の読書活動に肯定的な意見を持つ生徒・保護者は80%以上を今年度も一定の成果をあげ、生徒の図書館利用もわずかに上昇している。今後、図書館を身近で気軽に利用できる存在にしていきたいことが課題となっている。	B	①教科担任と担任、保護者が連携して、課題の提出を厳しくチェックする。 ②全ての教科へ授業での図書館の利用の方法を周知する。	学力は生徒の財産となる。家庭学習を定着させるための家庭との連携、平日課題・休日課題等の工夫・改善を今後も継続して行って欲しい。「しっとこ東中」は今後も継続して改善を重ねながら、よりわかりやすい冊子づくりに努めて欲しい。読書活動においては、生徒会図書委員会・学校司書・ライブラリーサポートとのより一層の連携を図り、生徒の図書館利用率の向上に努めて欲しい。	
	①ICT機器を活用した授業改善を行う ②授業における課題発表やスピーチの積極的な取り組み	①電子黒板や実物投影機等を活用した授業改善に努める。 ②各教科において1分間スピーチなど、生徒の発言の場を設定する。	①全教員がICT機器を活用できるようにする。 ②生徒アンケートの回答において、「先生は教え方にいろいろ工夫している」、「授業はわかりやすく楽しい」割合が85%になる。 ③定期テストで記述問題を含むテストを作成し生徒の考えを引き出す工夫に努める。	①全教員がICT機器を活用できるようにする。 ②生徒アンケートの回答において「先生は教え方にいろいろ工夫している」割合が85%であり目標を達成している。一方「授業はわかりやすく楽しい」と回答した生徒は7割を切っている。また、教職員アンケートの「授業研究を通して授業方法について検討している」の回答が昨年度91%に対し、76%に減少している③教科によっては、生徒の考えを引き出す記述問題をテストで出題している。	C	①教職員アンケートで「ICT機器の活用を含んだ教材研究を十分に行い、「よく分かる授業づくり」を実践している」と回答した教職員が8割を越えた。②生徒アンケートにおいて「先生は教え方にいろいろ工夫している」割合が約85%であり目標を達成している。一方「授業はわかりやすく楽しい」と回答した生徒は7割を切っている。また、教職員アンケートの「授業研究を通して授業方法について検討している」の回答が昨年度91%に対し、76%に減少している③教科によっては、生徒の考えを引き出す記述問題をテストで出題している。	①授業改善のためのICT活用法についての研修を行う。②授業研究を行い、授業方法について検討した上で、教員間で、より授業研究ができるような公開授業を行う。③テストのみならず授業の中でアクティブラーニングを通して生徒の言語活動の充実を図る。	普通教室にICT機器が設置された環境を有効活用して欲しい。アクティブラーニングの工夫や毎時めあてを提示し、生徒につけたい力を明確にしていく授業展開を継続して行って欲しい。ICT教育の充実を図るためには、教員間の連携や教員の研修が必要不可欠である。縦・横の連携を図り、教師自らが積極的に研鑽を積み、意識改善を図る必要がある。
豊かな心・確かな体	不登校への対応	不登校生徒を出さないための、伊丹市共通実践事項を実施する。学年の生徒指導の分掌の中で問題行動と不登校対応を分けることで教職員の負担を軽減する。	①不登校生徒数が前年比90%以下を目指す。 ②生徒アンケートの「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答する生徒が80%以上になる。	B	生徒アンケートの「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答する生徒は80%を越えている。また、放課後学校など個に応じた対応も心がける。不登校生徒は前年比の90%に止まった。課題は、「学校に行くのが楽しい」と回答する生徒が80%を下回っていること、「先生は相談にのってくれる」という生徒の回答が72%に止まっていることである。	積極的な電話連絡、家庭訪問を通して、生徒・保護者との関係づくりを行う。また、放課後学校など個に応じた対応も心がける。不登校生徒は前年比の90%に止まった。課題は、「学校に行くのが楽しい」と回答する生徒が80%を下回っていること、「先生は相談にのってくれる」という生徒の回答が72%に止まっていることである。	不登校問題は全国的な課題である。要因は様々で複雑化しており、個に応じた対応がさらに求められる。教育相談係会、学年会等の情報の共有化と家庭背景を視野にいった家庭との連携強化は必要不可欠である。関係機関との連携を今後もさらに図り、不登校0を目指す学校づくりに向け地域・保護者・学校が一体となり取り組んで欲しい。	
	問題行動への対応	問題行動を起させない指導体制を確立する	「みそあじ」を徹底し、問題行動を未然に防ぐ。	B	生徒はルールやマナーについてしっかり教えてもらっているという回答した生徒が80%を越えているが、保護者アンケートより「学校は自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えている」というのは80%を下回っていた。	「みそあじ」を徹底するとともに生徒一人一人に対するきめ細やかな指導を心がける。また問題行動に対して、組織的な対応をするために、教職員同士の連携を密にする。	学校の重点目標である「みそあじ」の徹底が望まれる。組織的な対応の確立に向けた若手教員の育成は必要不可欠であり、組織体制の見直しを図る必要がある。また、今後も保護者・生徒との信頼関係の構築を図り問題行動の未然防止に努めて欲しい。	
	道徳教育の推進	豊かな心を育てる道徳教育の充実をはかる	ローテーション授業を行い、担任だけでなく全教員の実践力の向上をはかる。	各学年ごとに、年1回の公開授業を行う。	B	ローテーション授業を学校全体で取り組めるようになってきた。教科化に向けて、授業づくりや評価の仕方などの共通理解を図るための校内研修を行った。今後は実践に向けて、より体制を整える必要がある。	ローテーション授業では、資料や指導案を検討する時間を確保するなど、内容の充実を図り、授業力向上につなげる。教科化に向けて、授業づくりや評価の仕方の校内研修をさらに充実させる。	ローテーション授業の定着が図られ、学校全体で取り組んでいる。いじめ防止に繋がる「心の教育」の充実を図っていくことが大切である。教科化に向けた校内研修体制の確立を図って欲しい。
	健やかな体づくりの推進	①健康管理の啓発を行う ②健全な食習慣の推進をはかる	①欠席調査を毎朝行い、感染症の拡大防止に努める。 ②保健だよりを通して、健康管理や健全な食習慣の啓発に努める。	①集団感染防止の対策を年間通して行う。 ②保健だよりを月1回以上発行する。 ③保健委員会を中心に、給食に関する整備やマナー等、食育の意識を高める。	B	①は、グランドアップ月間を活用し手洗いとうがい等の啓発や、教室の換気を行う取り組みをしている。「風邪調査」の実施も予定している。②は、保健だよりは毎月発行しホームページにも掲載している。保健委員も連携を図り感染予防や「健全な生活習慣について」の啓発について取り組む。給食に関する取り組みや食育に関しても、家庭科の授業や保健委員会の生徒を中心に、栄養教諭や保護者と連携を取りすすめていく。例えば、食育の情報発信を充実させるため、毎月発行の保健だよりや給食だよりは、保健委員会の生徒と連携し啓発する。	規則正しい生活習慣に関する生徒の意識が80%下回っているため、引き続き、体の授業等や保健だより、保健委員会も連携を図り感染予防や「健全な生活習慣について」の啓発について取り組む。給食に関する取り組みや食育に関しても、家庭科の授業や保健委員会の生徒を中心に、栄養教諭や保護者と連携を取りすすめていく。例えば、食育の情報発信を充実させるため、毎月発行の保健だよりや給食だよりは、保健委員会の生徒と連携し啓発する。	生徒会活動の取り組みであるグランドアップ月間や保健授業等を活用し、生徒の意識改革を図ることが大切である。保健だより、給食だより等の情報発信の啓蒙活動を行い、給食指導・食育指導の充実、体力向上に向けた取り組み今後も継続して行って欲しい。
	開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	積極的に学校情報を地域、保護者、生徒に発信する	①学校だよりを毎月発行し、学校掲示板に掲載する。 ②学校のホームページを月10回以上更新する。 ③保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」「学校は学校・学年便りやメール配信、ホームページを通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている」の回答が90%以上になる。	B	ホームページは頻りに更新を行っており、メール配信も警告発令時の休校の情報や学校行事の案内に活用するなど、積極的な情報発信に努めている。保護者アンケートでは、「学校は学校・学年便りやメール配信、ホームページを通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている」という目標は、肯定的な回答が93.9%ほど達成できたと言える。	学校だよりや学年通信を保護者に渡していない生徒も少なくないと思われるので、ホームページにも掲載することで、より多くの保護者に学校の情報が伝わるように発信していく。	情報発信は、保護者・地域との絆づくりでもある。今後も学校ホームページのより見やすい・わかりやすいホームページの作成と定期的な更新に努めて欲しい。保護者・地域に学校への理解を深めるためには、正確で積極的な情報発信を行っていく必要がある。
学校運営への市民参画の推進	東中ファミリーサポート・PTAとの連携強化をはかる	「サタスタ東」や「図書活動」「スマイル活動」などへの協力を生徒・PTA・地域に呼びかける。	①「サタスタ東」への生徒登録者が150人を超えている。 ②ボランティアスタッフの登録者が70名を超えている。 ③保護者アンケートで「学校はサタスタ東や図書活動などの取り組みを通して、地域や保護者との連携のもと積極的な教育活動を行っている」と回答した割合が80%以上になる。	B	①の登録生徒数については、今年度71名で目標を大きく下回っている点が課題である。 ②、③については前年度と変わりなく、東中ファミリーサポート等々の活動が保護者や生徒に十分周知されていることがわかる。	①サタスタ東登録者の目標達成のために、参加案内を学期始めや三者懇談時に配付し、年間を通して参加を募る。またサタスタ東の開催日数を増やすなど、生徒が参加しやすい環境を作っていく。保護者に対しては引き続き、学校だよりやメール配信なども直接的に案内を呼びかける工夫をする。 ②図書活動やスマイル活動の活性化のために、スマイル・ライブラリーサポートと図書委員会との連携を図る。	コミュニティ・スクール導入から3年が経過した。東中ファミリーサポートと連携をさらに図り、各サポートとの協力体制が課題と思われる。今後も学校生活化に向けた開かれた学校づくりを目指し、保護者・地域を学校に巻き込み、共に学校運営に参画していく意識を向上していくことが大切である。	
安心な学校づくり	避難訓練を徹底し、安全教育の取り組みを行う	学期に1回避難訓練及び安全教育を行う。	学期に1回避難訓練及び安全教育を行うことで、生徒の安全に関する意識を高める。	B	避難訓練は、今の内容で生徒の学校アンケートも90%近くが肯定意見だが、安全教育に関しては、交通事故や下校の様子などにおいて改善の余地がある。	学期に1回の避難訓練は引き続き行い、安全教育は交通ルールや下校指導など行っていく。	教職員の危機管理に対する意識改革を行い、安全・安心な学校づくりに努めていくことである。	
各 学 校 園 で 特 に 取 り 組 み た い 課 題	キャリア教育の推進	①3年間を見通したキャリア教育を推進する ②小中高連携を推進する ③ボランティア活動を実施する	①キャリア学習ノートを活用した進路指導を行う。 ②小中の十分な交流をはかる。 ③小中合同の行事を行う。オープンハイスクールへの参加を呼びかける。 ④東中地域活性化隊、夏休みの清掃活動を呼びかける。	B	①計画的にキャリア学習ノートを活用する。 ②小中の十分な交流をはかる。 ③生徒の「学校は、ボランティア活動を勤めている」保護者の「学校は、ボランティア活動を生徒に勤めている」の学校評価アンケートの肯定的意見が80%以上になる。	キャリア教育アンケートの肯定的意見は向上している。また、部活動単位で行事の時に清掃や準備に携わることもボランティア活動に近いと思われ、数多くの生徒が活動している。課題は高校との連携は学区も広く困難である。キャリア学習においては苦手な事に前向きに取り組むこと、将来に向けて自ら考え行動すること等がまだ不十分である。	キャリア教育において、教師側が自己管理能力・課題対応能力・キャリアプランニング能力等を特に意識する。その上で、キャリア学習ノートを使用するときのみでなく、普段の授業でも「なぜ学ぶのか」等を伝えていく。普段の学校生活(行事・部活動等)の中にもキャリア学習につながる(人間関係形成・課題対応能力等)はたくさんあり、その意義や役割の理解を進めていく。	キャリア教育における課題対応能力・キャリアプランニング能力の育成が生きていくに繋がる。進路指導を1年生段階から計画的に行い、3年後、10年後を見通した指導計画が必要である。今後も教員の資質向上を図りながらキャリア教育の推進に努めて欲しい。
	特別支援教育の推進	①個別の指導計画を作成する ②校内委員会を開催する	①教科担当の意見を取り入れ、個別にアセスメントを作成する。 ②月1回の開催を原則とし、必要に応じて随時ケース会議を開催する。	①個別の指導計画に基づき、「生徒一人ひとりの教育ニーズに応じた指導に努めている」の肯定的回答が80%以上となる。	B	①事前に小・中・高と新入生の情報交換や打ち合わせができていたため、大きな問題はなかった。 ②年間を通してケース会議を行うことができた。SCなど関係機関と情報共有もできた。校内委員会の実施回数も増えているので、今後は参加人数の調整が必要である。	①合理的配慮や個別の指導計画・支援計画等、時代のニーズに即した研修を取り入れる。 ②特別支援学級主任や特別支援教育コーディネーターの複数配置による、きめ細やかな対応。	合理的配慮について、教職員の意識改革、研修体制の確立が大切である。また、さらに個別の指導計画等を活用し生徒支援に繋げていくことである。関係機関との連携をさらに図り、今後も教育支援係会、教育支援委員会やケース会議を必要に応じて行い、支援体制の確立を目指して行って欲しい。
	子どもたちの一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進	①Q-Uを活用したバランスのとれた集団づくりを行う。 ②学級・学年でのリーダー育成を行う ③礼儀と規律ある部活動の推進をはかる	①年2回Q-Uを実施し、学級の現状を把握する。 ②リーダー研修会や専門委員会を定期的に行う。 ③定期的な部活動集会を実施する。	①全クラスについて、学年全体でQ-U結果向上のための意見交換を行っている。 ②夏期休業にリーダー研修会を実施し、リーダー育成を推進する。月1回専門委員会を行っている。 ③定期的な部活動集会を実施し、各部活動での意識を高める。	B	年2回Q-Uを実施し、学年で分析をして、本年度は外部の専門家からQ-Uの見方や子どもとの関わり方を指導していただいたが、全ての子どもに対してきめ細やかな関わりはできていない。部活動集会や各部活動を通して、礼儀や規律が身についたと感じている生徒が多い。	カウンセリング対象生徒を中心に、担任・副担任問わず、向き合う時間を増やしたり関わり方の工夫をする。また、生徒自身が主体的により良い学校づくりができるよう、専門委員会の運営方法や、グランドアップ週間の内容について、生徒会が中心となって考えていく必要がある。	生徒と向き合う時間の確保が今後も大きな課題と思われる。Q-Uにおける検証・分析結果を今後も活かして、生徒一人ひとりに対応した「心の教育」の充実にも努めて欲しい。個に応じたよりきめ細やかな指導を心がけ、生徒の心によりそった教育の推進を図る必要がある。
安全で快適な学校園施設の整備	①無言清掃を徹底する ②情報教育機器の整備を拡充する ③教育環境の整備を行う	①徹底した無言清掃を行う。 ②備品管理を徹底させる。 ③図書館、武道場の有効利用を行う。	①「学校が生活の場として、清潔で美しく整っている」の回答が80%以上になる。 ②③「図書館やコンピューター室が使いやすく利用している」の回答が80%になる。	B	図書館については給食により利用しやすい時間が減っているが、前年度より評価は上がっている。生徒の「清潔で美しく整っている」についても前年度より2.8%上がっている。しかしやや思うような人数が増えている。	無言清掃だけでなく、日々の整理整頓を徹底することによって学校生活の場を整える意識を向上させる。	立腰教育・無言清掃のさらなる充実を目指し、校内体制の確立を図る。また、立腰教育・無言清掃を今後も教育活動に生かし学校の活性化を図っていくことが大切である。図書館利用率の向上を目指して欲しい。	

学校関係者評価総括 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を図り、地域・保護者・生徒に愛される学校づくりを目指していく。

次年度に向けた重点的な改善点 不登校生徒へのきめ細やかな対応、さらなる学力向上、「文武両道」を軸とした生徒の育成を図っていく。